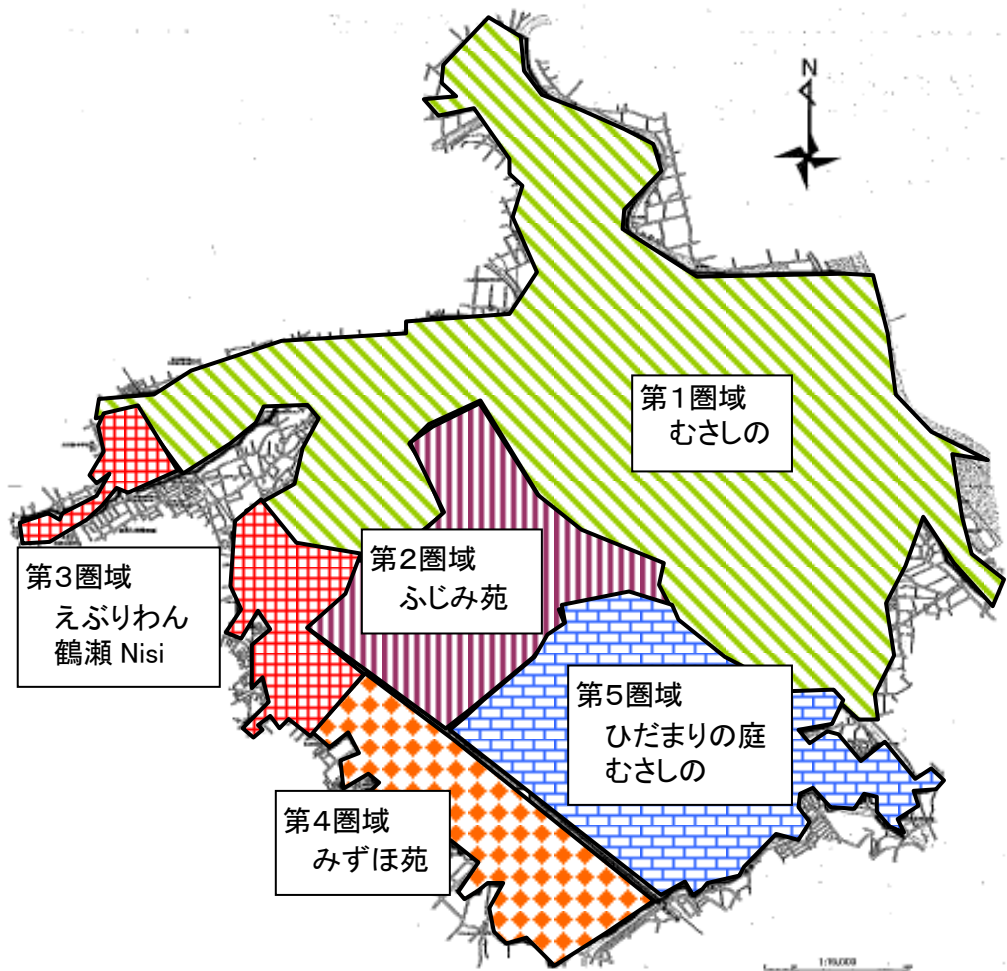


令和2年度

## 高齢者あんしん相談センター（地域包括支援センター）

## 活動実績報告 及び 決算報告



地域包括支援センターの運営につきましては、介護保険法施行規則第140条の66第2号の規定に基づき、市町村が設置した運営協議会等の意見を踏まえて、適切、公正かつ中立な運営を確保することとされており、毎年度の事業計画や収支予算、収支決算などセンターの運営に関する事項の確認などについても、運営協議会等の議を経なければならないとされています。

本市においては、富士見市介護保険事業推進委員会にて、高齢者あんしん相談センターの運営に関する事等の審議をいただいております。

令和2年度 高齢者あんしん相談センター むさしの 活動実績報告

総合相談支援	総合相談	訪問	491 件	
		電話	780 件	
		来所	36 件	
	高齢者実態把握訪問（再掲）		234 件	
	出前講座		0 回（— 人）	
	介護予防講座		0 回（— 人）	
	出張相談会		0 回（— 人）	
	地域ケア会議		圏域会議：1 回	個別会議：3 回
			介護予防支援地域ケア会議(事例提出)：1 回（2 件）	
	関係機関との連携（会議出席・周知活動）		22 回	
見守りネットワーク普及活動	訪問活動件数	16 件		
	承諾件数	事業所：16 件（再承諾11件含む）		
権利擁護(再掲)	虐待	8 件		
	成年後見	4 件		
	消費者被害	2 件		
包括的・継続的ケアマネジメント	担当者会議の出席（要介護者）	0 回		
	ケアマネジャーからの相談	56 件		
ケアマネジャー研修会（包括主催）		1 回（62 人） 内容「人の動きと環境設定～住宅環境を考える～」等		
介護予防給付	包括	給付管理数(延数)・実人数	232 件（29 人）	
	委託	給付管理数(延数)・実人数	338 件（40 人）	
総合事業	介護予防ケアマネジメント A	包括	247 件（32 人） (うち事業対象者数 0 人)	
		委託	173 件（26 人）	
	介護予防ケアマネジメント C	包括	0 件（0 人） (うち事業対象者数 0 人)	
介護者支援	介護者教室	2 回（21 人）		
	介護者サロン支援	0 回（介護者：— 人）		
認知症サポーター養成講座	養成講座	1 回（21 人）		
	フォローアップ研修	0 回（— 人）		
認知症カフェ開催（参加延べ人数）		2 回（本人：0 人） (家族：2 人)（協力者：8 人）		
地域包括支援センター全体会議、管理者会議		12 回		
認知症地域支援推進員会議		9 回		
認知症初期集中チーム会議の出席、アルツハイマーデーイベント参加等		オレンジダイヤル 4 回		
生活支援体制整備推進会議の出席、事業の参加等		0 回		
介護保険事業推進委員会の出席		2 回		
その他の活動等	研修等の出席、事業の参加等		13 回	
	ケアマネサロン「クラージュ」		0 回（— 人）	
	交通安全アドバイス		11 回（7,810 人）	
	南畑健康講座		0 回（— 人）	
地域行事などへの協力等		18 回		

【活動内容総括】

令和2年2月末～新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策のため、集団での活動が制限され、例年行ってきた高齢者ふれあいサロンなどの出前講座や介護予防講座等は中止となり、地域での顔の見える関係づくりが継続できず、地域の声を聞く機会が減りました。積極的な高齢者実態把握訪問も自粛したため、相談件数が減っています。そのため、地域包括支援センターむさしの便りを年4回作成し、高齢者世帯への配布を試みました。介護者教室では、コロナ禍での感染対策としてカウンテックやフレイル予防、栄養管理等の講座を開催しました。また、ZOOM等のWebを活用し、会議や在宅勤務(半日交代)を行いました。実際に地域防災訓練(法人)参加やオレンジカフェでもZOOMを使い、地域の方にも体験していただきました。今後もできる限り、地域に出て、顔の見える関係づくりを継続していくことを基本とし、コロナ感染拡大や災害が起きた場合など、どんな状況になっても、見守り支援していけるような環境づくり(Web等の活用等)をしていくことも必要だと思えます。

令和2年度 地域ケア圏域会議 実施結果

高齢者あんしん相談センター むさしの

日時及び場所	参加者	討議内容(地域課題・対応・今後の課題など)
<p>10月28日(水) 13:00~14:00</p> <p>南畑公民館</p>	<p>医師 1名 町会長 1名 民生委員 5名 介護支援専門員 3名 生活支援コーディネーター 1名 高齢者福祉課 1名 高齢者あんしん相談センター 4名 薬剤師 1名 福祉政策課 2名 健康増進センター 1名</p> <p>計 20名</p>	<p>「 勝瀬地域における避難行動要支援者と地域とのかかわりについて 」</p> <p>《ケース概要》 市(福祉政策課)の避難行動要支援者登録制度とは、「災害が発生した時に、支援が必要な高齢者や障がい者の方などに対し、安否確認や情報の提供、避難誘導など、地域での助け合いを進めるための仕組み」である。市の登録者総数は、10/28現在1,089人。勝瀬地区では80人の登録者がいる。</p> <p>《対応》 勝瀬地区はとても広い。また、大字勝瀬とふじみ野東とでは地域特性が異なる。そのような中で町会長や民生委員を中心として、幅広い支援活動がなされている。</p> <p>《今後の課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・独居者も多く、その中から選別して登録をお願いするにしても周知し切れない。</li> <li>・避難支援者は町会の役職に就いている人や民生委員が多い。その人達も高齢者で、いざという時は助けられない。</li> <li>・平常時は、連絡を密にしているが、有事には連絡が取りにくくなる恐れがある。その際は、身体状況を理解した上で警察や消防の救助があれば助かる。</li> <li>・大字勝瀬は、大雨が降ると、道路が冠水しボートが出ることもある。近隣者には、電話にて安否確認をし、2階があれば2階に避難するよう指示をしている。</li> <li>・ふじみ野東は、水害よりは地震被害が想定される。マンションではオートロックになっていることが多い。線路をまたいでの支援にもなる。町会に入っていない住民もいる。</li> <li>・足が不自由だと避難所へも行けない。近くの集会所は避難所にはならない。</li> <li>・登録対象者の「その他」(避難行動要支援者として市長が認めた方)には、乳幼児や妊産婦などが想定されている。軽度者や若い人達などに対象者を広げることで登録者が増え、必要時に安否確認などの支援を受けたことで、今度は地域に還元しようとする気持ちが生じ、登録者が協力者となり、結果として協力者が増えるという好循環が生まれてくる。</li> <li>・有事には、避難所として学校が指定されている。体育館や教室は寒く、特に床は冷える。段ボールをなど活用して、少しでも温かい場所を提供できればと考える。</li> <li>・平時においても危険な道や避難所までのより安全なルートを確認しておく。また、防災意識向上のためにも、若い人に防災訓練への参加を促し、「これをやってください」ではなく、「これをどうしたら良いですか」と質問型で問いかけていくことから始めて、自分のこととして考える良い機会になるを創出する。</li> </ul>
<p>2月 (開催予定)</p>		<p>新型コロナ感染症の影響により、開催できませんでした。</p>

令和2年度 地域ケア個別会議 実施結果

高齢者あんしん相談センター むさしの

日時及び場所	参加者	自立支援に資する討議内容
<p>8月24日(月) 10:30~12:00</p> <p>南畑公民館</p>	<p>介護支援専門員 4名 サービス事業者 2名 健康増進センター 1名 高齢者福祉課 2名 高齢者あんしん相談センター 5名 生活支援コーディネーター 1名</p> <p>計 15名</p>	<p>事例①《ケース概要》 79歳、男性。要介護2。妻と長男の3人暮らし。長女と次女は結婚し、それぞれ家庭がある。娘家族の訪問は頻回にあり、孫の成長を楽しみにしている。H14年に、脳梗塞を起こし、右麻痺と痺れがあるが、ADLはほぼ自立している。高血圧もあり薄味にしているが、味がまずいと言いい、自身で味付けをしている。以前は、親族や近所との、行き来があったが、コロナ禍で現在は無い。また、バスを利用し一人でホームセンターに出掛けることもあったが、最近はお出かけられず、体力の低下を感じている。家事は、妻が全て担当している。園芸の趣味があり、デイケアでも畑仕事に取り組んでいる。一生懸命取り組み、疲れからイライラしたり、足のツツパリが頻回にあったが、最近は無理のない程度にしているため、イライラや、足のツツパリも落ち着いている。他の利用者との会話を楽しまれているが、集団レクは飽きたとのことで、不参加である。介護サービスは、通所リハ(週1回)、訪問マッサージ(週2回)を利用。 《課題・検討内容・自立支援に向けて》 長年の利用の中で、本人の希望を取り入れながら、リハビリのプログラム構成を行っているが、右足の蹴り出しの低下が見られる中で、本人に必要なリハビリとなっているか。マッサージなどの拘縮予防や、自身でも行える運動や体操を身に着けることにより、機能の維持・向上となり、体力の低下を予防できると思われる。また、通所リハで作った野菜などは、職員へ配布をしているが、作った野菜をみんなで食す機会があれば、素材の味を感じ徐々に薄味にもなれ、趣味の畑仕事を行う意欲にもなるとと思われる。</p> <p>事例②《ケース概要》 77歳、女性。要介護2。夫と長女の3人暮らし。次女は、結婚し家庭がある。家族関係は良好で、夫は本人が生活しやすいように、住宅改修を自ら行うなど介護に積極的である。また、週1回の買い物も同行している。長女もシフト勤務で忙しいが、受診同行や食事の用意など支援している。近隣との関係も良好で、何かあった際には、支援も期待できる関係。H22年脳梗塞により、左半身麻痺があり、既往に高血圧がある。自宅では、車椅子生活だが、食事・排泄・更衣などほぼ自立している。一般浴での入浴も可能だが、本人が慎重で拒否があり、デイケアの機械浴を利用している。また、デイケアでは、4点杖でフロア内を歩行しているが、近所の目を気にして、出たがらない。日曜日に、夫の付き添いのもと、散歩をしており、家ではTVを観て過ごしている。家事は、家族の反対もあり、包丁を持たせてもらえず、洗濯量や簡単な昼食の用意などのみ行っている。介護サービスは、通所リハビリ(週2回)、福祉用具(特殊寝台)を利用。なお訪問介護の利用希望はない。 《課題・検討内容・自立支援に向けて》 腰痛の出現により、現在は疼痛緩和のため、車椅子で過ごしている。本来は、左下肢に装具を装着すれば、4点杖での歩行が可能である。散歩をしたいという気持ちはあるが、一人で外出する恐怖心や近所の目を気にしてなかなか散歩に行けていない。元々は、外出好きであり、旅行にも行っていた。4点杖で買い物に行くなどし、外出に対する自信を持てれば、外出の機会も増えていくと思われる。また、過度な家族の支援により、家事をほとんど行っていない。家族の協力を得て、家事分担を増やすことにより、本人の自信へと繋がるとと思われる。</p>

<p>8月24日(月) 13:30～15:00</p> <p>南畑公民館</p>	<p>介護支援専門員 3名 サービス事業者 2名 健康増進センター 1名 高齢者福祉課 2名 高齢者あんしん相談センター 5名 生活支援コーディネーター 1名</p> <p>計 14名</p>	<p>事例①《ケース概要》 90歳、男性。要介護2。70歳まで就労。長女家族と同居。次女が県外に在住。妻は両膝人工関節置換術を施行。(日常生活自立度:障害 A1 認知症 I) H28年5月、腰椎圧迫骨折、骨粗鬆症診断。同8月、アルツハイマー型認知症診断(記憶力低下。情緒不安定。)。高コレステロール血症。前立腺肥大。高血圧症。難聴。R元。11月より、デイサービスに週2回通所している。長年、囲碁が趣味。デイサービスでも時間を忘れてしまうほど集中。半面、自分のペースを乱されたりするのを嫌い、体操や行事などにはあまり興味を示さない。また、病院や服薬を嫌い、思い込むと頑として耳を貸さない。 《課題・検討内容・自立支援に向けて》 90歳と高齢であり、本人しか分からない身体状況や認知症による記憶力低下・感情の起伏、元来の几帳面さ・頑固さ、難聴などが影響して、支援の難しい状況が随所で出現している。認知症であるからと決めつけず、様々な要因を複合的に理解した上で、伝えなければならないことはしっかり伝える姿勢が大切である。そのためには、家族やケアマネジャー、デイサービス、医師などの支援者において、本人を混乱させない支援方法や服薬管理など、介護・医療の連携の下、自立できていることを今後も続けられるようサポートをしていく必要がある。</p> <p>事例②《ケース概要》 79歳、女性。要介護1。離婚した元夫と集合住宅の2階に2人暮らし。長男は市内、長女は県外に在住。長女は、月1回の訪問があり、長男は多忙のため電話のみの付き合いとなっている。(日常生活自立度:障害 A2 認知症 自立) H27.7月、骨髄腫瘍手術。第4腰椎すべり症。脊柱管狭窄症。右変形性膝関節症。杖歩行。睡眠薬処方。デイサービスに週2回の午前中に通所している。特殊寝台を自費で貸与している。デイサービスでは体力や筋力向上に努め、話し好きで他者との交流は良好。但し、知人との付き合いは良いが、慣れない人とは気疲れしてしまい、周りの目を気にする性格。医師からは、右膝手術を勧められているが、前向きではない。 《課題・検討内容・自立支援に向けて》 ・手術にも時期がある。医師の勧めがあり、かつ痛みが取れることでの生活向上を考えれば、今施行したほうが良い。 ・市の体育館での事業やふじみパワーアップ体操などの活用。 ・手芸が趣味。指の動きが悪くなり長い活動はできないが、作成の喜びや材料買い出しなどを通して、活動意欲が更に醸成される。 ・膝の痛みを軽減し、休憩もできる歩行器や自宅内移動を安定させる手すり、立ち上がりを楽にする、たちあふぶなどを活用し、移動や起居動作を補助し、活動量を増やす。 ・デイサービスでの交流のみならず、地域での新たな、少人数での交流が始まっている。自宅近くで探してみようか。</p>
<p>3月29日(月) 13:30～15:00</p> <p>ZOOM開催</p>	<p>介護支援専門員 5名 サービス事業者 3名 健康増進センター 1名 高齢者福祉課 2名 高齢者あんしん相談センター 4名 生活支援コーディネーター 1名</p> <p>計 16名</p>	<p>事例①《ケース概要》 79歳、男性。要介護2。妻、長男、次女との4人暮らし。長女は近隣の市に在住でよく来訪している。妻は元民生委員、子は日中仕事で不在。基本的な家事は妻が担当している。逆流性食道炎からか誤嚥性肺炎を繰り返しており、その都度ADLや認知機能が一時低下するが日にちが経つと戻ってくる。そのほか、パーキンソン病、糖尿病、肺気腫、うつ病の既往があり治療を続けている。1年ほど前までは趣味で畑作業を行っており、近所の集まりなども積極的に参加していたが、入退院の繰り返しでADLが低下傾向であり、最近外に出ることもほぼ見られず、家でソファに座って過ごしている。本人は物静かで穏やかな性格であるが、夜間帯にせん妄が見られ、時折、妻を怒鳴ってしまうなど、精神面にも変化が見られてきている。介護サービスは、地域密着型通所介護(週2回)、福祉用具貸与(特殊寝台)を利用。 《課題・検討内容・自立支援に向けて》 逆流性食道炎があり誤嚥性肺炎から入退院を繰り返している可能性が高い。パーキンソン病も進行性の疾患であるため、食事内容の評価や、体調の確認は不可欠である。また、生き甲斐という点で、すぐ隣に保育園があり、昔は保育園の子ども達に向けて野菜を提供していたりと地域との交流があった。病気の治療だけでなく、そういった面にも注目してケアプランに組み立てていくと、本人の意欲向上にも繋がっていくと思われる。</p> <p>事例②《ケース概要》 73歳、男性。要介護2。妻と2人暮らし。長女は同じマンションの9階に在住。長男は別に住んでいる。家事全般は妻が行っているが、同居している妻がうつ病の治療中のため、本人が妻の面倒を見ている時期もあった。長女と長女の夫が何かと支援をしており、長男も通院時などに手伝いに来てくれる。大学卒業から60歳まで高校の教員を勤めており、定年後は新型コロナウイルス感染症が流行するまで書道教室やグループ個展を開き、積極的に地域活動を行っていた。R2.10月にびまん性大細胞型B細胞リンパ腫が発覚し、両下肢のしびれ、左下肢浮腫み、右上肢と左下肢付け根に痛みがあり、ADLが低下したことについてショックを受けていたが、リハビリに対して意欲的でまた教室を再開していきたいと意欲的である。家族に対しては、うつ病で治療中の妻を気遣い、迷惑をかけたくないという思いがある。介護サービスは、訪問看護(週3回)、福祉用具貸与(手すり、車椅子)を利用。 《課題・検討内容・自立支援に向けて》 本人の自立に対する意欲は高いが、症状が落ち着いていなく本人も精神的に不安定になっている部分がある。まずは治療に専念し状況の確認を行いながら、本人の意欲を引き出せるよう生活に対する目標を定めていく。同居している妻もうつ病の治療中のため、本人、家族ともに大きな負担が掛からないよう、随時、支援内容を確認していく必要がある。</p>

資金収支計算書  
(自) 令和 2年 4月 1日 (至) 令和 3年 3月31日

(単位:円)

勘定科目		予算(A)	決算(B)	差異(A)-(B)
収入	0165 介護保険事業収入	26,559,000	26,615,017	-56,017
	0171 居宅介護支援介護料収入	2,259,000	2,311,444	-52,444
	8162 介護予防支援介護料収入	2,259,000	2,311,444	-52,444
	0173 その他の事業収入	24,300,000	24,303,573	-3,573
	8181 補助金事業収入	363,000	363,000	
	8183 受託事業収入	23,937,000	23,940,573	-3,573
	0200 受取利息配当金収入	1,000	55	945
	8541 受取利息配当金収入	1,000	55	945
	0201 その他の収入	234,000	207,100	26,900
	8612 利用者等外給食費収入	232,000	206,100	25,900
	8613 雑収入	2,000	1,000	1,000
事業活動収入計(1)		26,794,000	26,822,172	-28,172
事業活動による収支	0129 人件費支出	22,495,000	22,534,850	-39,850
	7112 職員給料支出	13,784,000	13,785,947	-1,947
	7113 職員賞与支出	3,588,000	3,587,800	200
	7114 非常勤職員給与支出	1,855,000	1,899,563	-44,563
	0001 給与	1,820,000	1,864,639	-44,639
	0002 賞与	35,000	34,924	76
	7116 退職給付支出	534,000	534,000	
	7117 法定福利費支出	2,734,000	2,727,540	6,460
	0001 社会保険料 給与分	2,057,000	2,051,562	5,438
	0002 社会保険料 賞与分	518,000	517,940	60
	0003 労働保険料	159,000	158,038	962
	0130 事業費支出	672,000	746,733	-74,733
	7215 保健衛生費支出	14,000	11,398	2,602
	7223 水道光熱費支出	238,000	240,588	-2,588
	0001 電気	120,000	118,511	1,489
	0002 水道	27,000	26,244	756
	0003 ガス	91,000	95,833	-4,833
	7225 消耗器具備品費支出	120,000	99,380	20,620
	7232 車輛費支出	300,000	395,367	-95,367
	0131 事務費支出	2,618,558	2,220,946	397,612
	7311 福利厚生費支出	70,000	67,819	2,181
	7313 旅費交通費支出	2,000	1,350	650
	7314 研修研究費支出	51,000	42,000	9,000
	7315 事務消耗品費支出	291,000	190,242	100,758
	7316 印刷製本費支出	1,000		1,000
	7319 修繕費支出	42,000	35,139	6,861
	7321 通信運搬費支出	122,000	119,877	2,123
	7322 会議費支出	8,000	15,591	-7,591
	7323 広報費支出	264,000	132,000	132,000
	7324 業務委託費支出	342,558	201,183	141,375
	7326 保険料支出	151,000	164,085	-13,085
	0001 火災	9,000	8,155	845
	0002 自動車	142,000	155,930	-13,930
	7327 賃借料支出	1,043,000	1,041,705	1,295
	7329 租税公課支出	20,000	20,000	
	7331 保守料支出	5,000	4,488	512
	7332 渉外費支出	27,000	10,000	17,000
	7333 諸会費支出	2,000	1,000	1,000
	7335 雑支出	177,000	174,467	2,533
	0001 支払手数料	3,000	1,967	1,033
	0002 共助会費	174,000	172,500	1,500
0137 支払利息支出	13,289	13,289		
7441 支払利息支出	13,289	13,289		
事業活動支出計(2)		25,798,847	25,515,818	283,029
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)		995,153	1,306,354	-311,201

施設整備等による収支	収入	施設整備等収入計(4)			
	支出	0143 設備資金借入金元金償還支出	309,960	309,960	
		7511 設備資金借入金元金償還支出	309,960	309,960	
		0144 固定資産取得支出	1,248,000	1,168,000	80,000
		7522 建物取得支出	148,000	148,000	
		7523 車輛運搬具取得支出	1,100,000	1,020,000	80,000
	施設整備等支出計(5)	1,557,960	1,477,960	80,000	
	施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	-1,557,960	-1,477,960	-80,000	
その他の活動による収支	収入	その他の活動による収入計(7)			
	支出				
		その他の活動支出計(8)			
		その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)			
	予備費支出(10)		—		
	当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)	-562,807	-171,606	-391,201	
	前期末支払資金残高(12)	3,120,974	2,652,323	468,651	
	当期末支払資金残高(11)+(12)	2,558,167	2,480,717	77,450	

令和2年度 高齢者あんしん相談センター ふじみ苑 活動実績報告

総合相談支援	総合相談	訪問	641 件	
		電話	1,602 件	
		来所	169 件	
	高齢者実態把握訪問（再掲）		203 件	
	出前講座		0 回（— 人）	
	介護予防講座		0 回（— 人）	
	出張相談会		0 回（— 人）	
	地域ケア会議		圏域会議：2 回	個別会議：1 回
			介護予防支援地域ケア会議(事例提出)：2 回（4 件）	
	関係機関との連携（会議出席・周知活動）		9 回	
見守りネットワーク普及活動	訪問活動件数	45 件		
	承諾件数	事業所：0 件		
権利擁護(再掲)		虐待	24 件	
		成年後見	5 件	
		消費者被害	0 件	
包括的・継続的ケアマネジメント		担当者会議の出席（要介護者）	0 回	
		ケアマネジャーからの相談	101 件	
ケアマネジャー研修会（包括主催）		1 回（62 人）	内容「人の動きと環境設定～住宅環境を考える～」等	
介護予防給付	包括	給付管理数(延数)・実人数	9 件（2 人）	
	委託	給付管理数(延数)・実人数	339 件（36 人）	
総合事業	介護予防ケアマネジメント A	包括	給付管理数(延数)・実人数 （うち事業対象者数 1 人）	
		委託	給付管理数(延数)・実人数 523 件（58 人）	
	介護予防ケアマネジメント C	包括	給付管理数(延数)・実人数 （うち事業対象者数 1 人）	
介護者支援		介護者教室	1 回（10 人）	
		介護者サロン支援	0 回（— 人）	
認知症サポーター養成講座		養成講座	0 回（— 人）	
		フォローアップ研修	0 回（— 人）	
認知症カフェ開催（参加延べ人数）		1 回（本人：2 人） （協力者：2 人）		
地域包括支援センター全体会議、管理者会議		11 回		
認知症地域支援推進員会議		9 回		
認知症初期集中チーム会議の出席、アルツハイマーデーイベント参加等		オレンジダイヤル 4 回		
生活支援体制整備推進会議の出席、事業の参加等		0 回		
介護保険事業推進委員会の出席		2 回		
その他の活動等	研修等の出席、事業の参加等		4 回	
	ケアマネサロン「クラージュ」		0 回（— 人）	
	交通安全アドバイス		0 回（— 人）	
	パワーアップ体操		0 回（— 人）	
地域行事などへの協力等		9 回		

【活動内容総括】

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、予定していた行事がほとんど中止となりました、市内でもコロナ感染者が増える中、外出を控える高齢者の方も多く、生活環境が大きく変化しました。一時期相談件数も減っていましたが徐々に増えてきており、また認知症カフェ(オレンジカフェ)は参加人数を限定し10月ごろからは再開はしていますが、なかなか以前のようには戻っていません。虚弱高齢者に対して今後フレイル予防が大事となってきている事を感じています。より一層地域の中での地域包括支援センターの活動が必要であり、この状況に合った考え方や対応の仕方を検討していく必要性を感じています。



令和2年度 地域ケア圏域会議 実施結果

高齢者あんしん相談センター ふじみ苑

日時及び場所	参加者	討議内容(地域課題・対応・今後の課題など)
<p>10月15日(木) 15:30～16:30</p> <p>市民総合体育館</p>	<p>医師 1名 民生委員 2名 介護支援専門員 2名 生活支援コーディネーター 1名 高齢者福祉課 2名 高齢者あんしん相談センター 3名</p> <p>計 11名</p>	<p>「 コロナフレイル～ 外出が減っている高齢者に出来ること～ 」</p> <p>《ケース概要》 96歳、女性。愛犬との生活。コロナ禍で地域サロンがなくなり6月ごろより物とられ妄想が出始める。隣の人に「あんた盗人でしょ」と言う。表情も陰しく口調も荒い。以前は、買い物などの外出先で出会った際にご近所の高齢者に進んで声をかけ行ったり、社交性があり、週に3回はどこかのサロンに顔を出すようなお元気な方だった。今後も在宅で生活を送るためにはどのように地域と関わることがいいのか。</p> <p>《対応》 区分変更申請し、要支援1→要介護1となり、通所サービスを増やした。また主治医に相談し検査実施。検査では脳委縮はなく内服で様子を見ている。</p> <p>《今後の課題》 サロンの閉鎖が高齢者の行き場をなくしているが感染対策等でなかなか開始出来ていない。運営サイドの考えもある。認知症の高齢者も増えてきている状況から、今後も「話す場」は必要。みんなで考えて賛同した人が参加をするなどそれぞれの形を選ぶことがいい。介護保険に頼らないやり方があればいいと思う。地域も不安・心配がある。高齢でもあり、ご家族の関りが目に見えると安心するのではないか。医師からは、急激な変化であり認知症ではないかもしれない、専門医に受診を、と助言いただく。</p>
<p>3月25日(木) 15:00～16:00</p> <p>市民総合体育館</p>	<p>医師 1名 民生委員 1名 介護支援専門員 1名 生活支援コーディネーター 1名 高齢者福祉課 2名 高齢者あんしん相談センター 3名</p> <p>計 9名</p>	<p>「 コロナフレイル～外出が減っている高齢者に出来ること②～ 」</p> <p>《ケース概要》 前回の会議より引き続きコロナ禍で、自粛生活であり活動の制限がある。宅配だけで生活を送っている方もいる。介護保険の介護度も高くなっている方もいる。家族関係も悪化したりと高齢者の置かれている環境は変わってきている。</p> <p>《対応》 地域の民生委員活動も中止。サロンがないと困るという話は聞くが直接言われた事はない。市で行う緊急時連絡システムの相談や設置件数は増えている。医師からは長期処方・物忘れ外来の予約は増えた。内服の相談もしてもらって構わない。またデイサービスを休んで、訪問介護のみの利用の方もいる。サロンの今後の活動もサロン単位での考え方になるので、高齢者も不安があるのではないか。地域包括支援センターで「お散歩マップ」を作り、配布している。</p> <p>《今後の課題》 高齢者がお互いで安否確認するネットワークが出来ていたり、公民館利用の高齢者も増えている。感染対策を行い、徐々にサロンや地域行事が開催できる方法を考えることが必要。地域包括支援センターの周知も引き続き強化していきたい。</p>

令和2年度 地域ケア個別会議 実施結果

高齢者あんしん相談センター ふじみ苑

日時及び場所	参加者	自立支援に資する討議内容
5月 (開催予定)		新型コロナウイルス感染症の影響により、開催できませんでした。
9月15日(火) 13:30~15:00 市民総合体育館	医師 1名 介護支援専門員 5名 健康増進センター 1名 高齢者福祉課 2名 高齢者あんしん相談センター 4名  計 13名	事例①《ケース概要》 77歳、女性。要介護3で有料老人ホーム住宅型に入所。アルツハイマー型認知症。症状は進み、歯磨き粉を顔に塗る、オムツに穴を開けてしまう、内服薬を飲み込むことが出来ない等々、生活上で支援が必要。性格は穏やか。歩行は出来ており、職員の後ろを歩いている。おしゃれで笑顔が素敵。 《課題・検討内容・自立支援に向けて》 職員との関りで、楽しい・嬉しい感情を持つ事が大事。残存機能の維持を大事に。内服は慎重に主治医と相談を。何か役に立ちたいというご本人の気持ちを大事に出来ることを、今後も職員と声かけながら行ってほしい。  事例②《ケース概要》 80歳、男性。要介護1。悪性リンパ腫。要介護4のときに有料老人ホームに入所したが、その後、要介護1となり、R元年に退所。自宅で妻と2人暮らし。症状が落ち着き、現在はほぼ自立。通所介護週3回。このままのプランでいいのか悩んでいる。 《課題・検討内容・自立支援に向けて》 腰痛はあるが家事や買い物も行けている。老人福祉センター(びん沼荘)にも通えているが、ご本人の今後の生き方や生活からすると、介護サービスと両方でバランスを保っているのでは。地域のサロン等を仲介してくれる人がいればいい。プランも目標を評価しやすくし、介護保険だけに頼らず良くなってきたきっかけで、地域に戻るよう声掛けをしていく必要がある。

5月 (開催予定)		新型コロナウイルス感染症の影響により、開催できませんでした。
--------------	--	--------------------------------

## 地域包括支援センターふじみ苑サービス区分 資金収支計算書

(自) 令和2年4月1日 (至) 令和3年3月31日

(単位：円)

勘定科目名		予算 (A)	決算 (B)	差異 (A) - (B)	備考
収入	介護保険事業収入	23,179,000	23,187,392	△ 8,392	
	居宅介護支援介護料収入	578,000	602,081	△ 24,081	
	介護予防支援介護料収入	578,000	602,081	△ 24,081	
	その他の事業収入	22,601,000	22,585,311	15,689	
	補助金事業収入(公費)(介護・その他)	148,000	148,000	0	
	受託事業収入(介護・その他)	22,400,000	22,400,000	0	
	参加費収入	6,000	400	5,600	
	その他の事業収入(介護・その他)	47,000	36,911	10,089	
	受取利息配当金収入	1,000	37	963	
	事業活動収入計 (1)	23,180,000	23,187,429	△ 7,429	
事業活動による収支	人件費支出	19,974,000	19,852,949	121,051	
	職員給料支出	12,998,000	12,997,462	538	
	職員賞与支出	3,981,000	3,980,286	714	
	非常勤職員給与支出	0	0	0	
	退職給付支出	534,000	534,000	0	
	法定福利費支出(人件費)	2,461,000	2,341,201	119,799	
	事業費支出	1,190,000	1,184,047	5,953	
	給食費支出	1,000	927	73	
	保健衛生費支出	29,000	28,050	950	
	水道光熱費支出(事業)	171,000	170,842	158	
	消耗器具備品費支出	42,000	41,470	530	
	保険料支出(事業)	100,000	99,115	885	
	賃借料支出(事業)	802,000	801,776	224	
	車輛費支出	45,000	41,867	3,133	
	事務費支出	1,812,000	1,807,162	4,838	
	福利厚生費支出(事務)	222,000	221,800	200	
	職員被服費支出	44,000	43,910	90	
	旅費交通費支出(事務)	5,000	4,360	640	
	研修研究費支出	0	0	0	
	事務消耗品費支出	106,000	105,552	448	
	修繕費支出(事務)	13,000	12,251	749	
	通信運搬費支出(事務)	249,000	248,103	897	
	会議費支出(事務)	0	0	0	
	業務委託費支出	954,000	954,000	0	
	手数料支出(事務)	2,000	1,018	982	
	土地・建物賃借料支出(事務)	150,000	150,000	0	
	租税公課支出(事務)	20,000	20,000	0	
保守料支出(事務)	32,000	31,668	332		
諸会費支出(事務)	15,000	14,500	500		
	事業活動支出計 (2)	22,976,000	22,844,158	131,842	
	事業活動資金収支差額 (3) = (1) - (2)	204,000	343,271	△ 139,271	

## 地域包括支援センターふじみ苑サービス区分 資金収支計算書

(自) 令和2年4月1日 (至) 令和3年3月31日

(単位：円)

勘定科目名		予算 (A)	決算 (B)	差異 (A) - (B)	備考
施設整備等による収支	収 入				
		施設整備等収入計 (4)	0	0	0
	支 出	固定資産取得支出	33,000	32,147	853
		建物取得支出	9,000	8,778	222
		器具及び備品取得支出	24,000	23,369	631
		施設整備等支出計 (5)	33,000	32,147	853
	施設整備等資金収支差額 (6) = (4) - (5)	△ 33,000	△ 32,147	△ 853	
その他の活動による収支	収 入				
		サービス区分間繰入金収入		7,000	△ 7,000
		その他の活動収入計 (7)		7,000	△ 7,000
	支 出	積立資産支出	171,000	170,400	600
		退職給付引当資産支出	171,000	170,400	600
		サービス区分間繰入金支出	0	147,724	△ 147,724
	その他の活動支出計 (8)	171,000	318,124	△ 147,124	
	その他の活動資金収支差額 (9) = (7) - (8)	△ 171,000	△ 311,124	140,124	
予備費支出 (10)		0	0	0	
当期資金収支差額合計 (11) = (3) + (6) + (9) - (10)		0	0	0	
前期末支払資金残高 (12)		0	0	0	
当期末支払資金残高 (11) + (12)		0	0	0	

令和2年度 高齢者あんしん相談センター えぶりわん鶴瀬Nisi 活動実績報告

総合相談支援	総合相談	訪問	435 件
		電話	1,562 件
		来所	82 件
	高齢者実態把握訪問（再掲）		149 件
	出前講座		0 回（— 人）
	介護予防講座		0 回（— 人）
	出張相談会		0 回（— 人）
	地域ケア会議		圏域会議：2 回 個別会議：2 回 介護予防支援地域ケア会議(事例提出)：2 回（5 件）
	関係機関との連携（会議出席・周知活動）		8 回
	見守りネットワーク普及活動	訪問活動件数	23 件
承諾件数		事業所：23 件	
権利擁護(再掲)	虐待	1 件	
	成年後見	0 件	
	消費者被害	0 件	
包括的・継続的ケアマネジメント	担当者会議の出席（要介護者）	0 回	
	ケアマネジャーからの相談	135 件	
ケアマネジャー研修会（包括主催）		1 回（62 人） 内容「人の動きと環境設定～住宅環境を考える～」等	
介護予防給付	包括	給付管理数(延数)・実人数	329 件（44 人）
	委託	給付管理数(延数)・実人数	414 件（35 人）
総合事業	介護予防ケアマネジメント A	包括	314 件（27 人） （うち事業対象者数 5 人）
		委託	304 件（37 人）
	介護予防ケアマネジメント C	包括	0 件（0 人） （うち事業対象者数 0 人）
介護者支援		介護者教室	2 回（15 人）
認知症サポーター養成講座	養成講座		1 回（10 人）
	フォローアップ研修		0 回（— 人）
認知症カフェ開催（参加延べ人数）			0 回（本人：— 人） （家族：— 人）（協力者：— 人）
地域包括支援センター全体会議、管理者会議			12 回
認知症地域支援推進員会議			9 回
認知症初期集中チーム員会議の出席、アルツハイマーデーイベント参加等		オレンジダイヤル	4 回 チーム会議出席 11 回
生活支援体制整備推進会議の出席、事業の参加等			0 回
介護保険事業推進委員会の出席			2 回
その他の活動等	研修等の出席、事業の参加等		11 回
	ケアマネサロン「クラージュ」		0 回（— 人）
	交通安全アドバイス		1 回（10 人）
地域行事などへの協力等			6 回

【活動内容総括】

新型コロナウイルス感染症の影響で先が見えないことへの不安、外出に対する不安、引きこもりになる不安などの相談が多くなりました。令和元年度と比べると相談の電話や訪問は26%増となりましたが、戸別訪問での高齢者実態把握訪問は減少し、ポスティングによる情報提供に変えて活動しました。職員体制は、常勤職員4名体制と介護予防マネジメント担当の非常勤職員0.5名を配置できました。地域ケア会議は、コロナの影響により思うような開催はできませんでしたが、その中でも感染症拡大防止対策をとりながら共有できる会議を設けました。また、認知症カフェの開催やケアラー支援体制の取り組み方が課題になっています。民生委員からは、「気になる方がいるが戸別訪問は控えている。」など戸惑いの声が届いています。地域の高齢者、地域住民、民生委員、自治会と連携を図り、顔の見える関係性を作るために、チラシ配布、声かけ、電話、集いの場へ参加し、身近な相談窓口である地域包括支援センターの周知を進め、包括的で専門性を持った支援に取り組んでいきます。

令和2年度 地域ケア圏域会議 実施結果

高齢者あんしん相談センター えぶりわん鶴瀬Nisi

日時及び場所	参加者	討議内容(地域課題・対応・今後の課題など)
<p>8月27日(木) 13:30～15:00</p> <p>サンライトホール</p>	<p>医師 1名 町会長 1名 民生委員 4名 介護支援専門員 4名 高齢者福祉課 1名 高齢者あんしん相談センター 4名</p> <p>計 15名</p>	<p>「 要介護者の家族介護力を考える 」</p> <p>《ケース概要》 高齢化と核家族化が進む中、社会全体の課題となっているのが「介護問題」。この介護問題を複数の事例を通し、家族介護が感じている介護の負担を和らげ、適切なサービスに繋げて「介護する人を支援する」提案を行う。事例①50代の長女(都内スーパー勤務)と70代の父親の2人暮らしのケース。事例②80代の妻(腰痛家事困難)と70代の夫が家事を担い、近隣の支援で何とか生活できている。</p> <p>《対応》 「老老介護、共倒れにならないような支援方法は」との意見から、事例を通して、家族、近隣だけで支えてきた生活に支援が入ることで、在宅生活が安定し、今まで疎遠だった親族の介入も見られるようになった。地域住民や民生委員、行政、医療、包括が定期的な訪問や声掛け等で関わり続けることで、介護の限界を見落とさずに次に繋げて行くことが大切ではないか。と共有した。</p> <p>《今後の課題》 コンフォールでは、高齢者が70%に達している。自宅で大変な思いをしている人がたくさんおり、できるだけ励ますようなイベントや集いの場を提供しているが、自治会には相談には来ない。民生委員からは、地区によっては、認知症の方や、介護を必要としている人が少なく、相談するケースが少ないが介護の大変さは理解しているので、協力していきたい。また、どこまで踏み込んでいいのか不安だとの意見がでた。</p>
<p>11月30日(月) 13:30～15:00</p> <p>サンライトホール</p>	<p>町会長 1名 民生委員 2名 介護支援専門員 4名 生活支援コーディネーター 1名 高齢者福祉課 2名 高齢者あんしん相談センター 5名</p> <p>計 15名</p>	<p>「 若年性認知症の支援について～地域でできること、関われること～ 」</p> <p>《ケース概要》 警察の通報からの事例、認知症が疑われると情報提供があり、地域包括支援センターが介入しうることになった。介入当時、64歳の男性、3度離婚しており元妻や実子との繋がりはなく実弟とも疎遠であった。就労しておらず、独居のため、実態が把握されないまま病状が進行。近隣への迷惑行為があり状態が発覚した。自分の氏名が書けず、金銭管理もできず、小銭がどこからか湧いてくる。住民登録は他市だが、現住所が富士見市であるため、様々な要因が重なった。</p> <p>《対応》 市、包括で連携し、生活保護の手続きや介護保険の申請に繋げていった。その後病院を受診し、若年性認知症の疑いあり、精査が必要と言われた。実弟と連絡をとることが出来、今後の方向性を共有、実弟が今後のキーパーソンとなった。その後、ケアマネジャーに繋げることができ、一人での生活が困難であったため、特別養護老人ホームへ入所することができた。</p> <p>《今後の課題》 ①独居で社会との繋がりが薄い場合や、就労世代で地域との関わりがない場合、状況の顕著化が遅くなりやすいこと。 ②認知症と比較すると、若年性認知症は病態の理解が進んでいないこと。 ③病気であることが外見でわからないため、周囲に気づきにくいこと。 ④就労世代に向けたサービスが少ないこと。</p>

令和2年度 地域ケア個別会議 実施結果

高齢者あんしん相談センター えぶりわん鶴瀬Nisi

日時及び場所	参加者	自立支援に資する討議内容
5月 (開催予定)		新型コロナウイルス感染症の影響により、開催できませんでした。
8月28日(金) 13:30~15:00  サンライトホール	介護支援専門員 4名 サービス事業者 3名 健康増進センター 1名 高齢者福祉課 2名 高齢者あんしん相談センター 4名  計 14名	<p>事例①《ケース概要》 68歳、男性。要介護1。脳出血の後遺症として左下肢軽度機能障害、左上肢機能全廃。独居、結婚歴なし。キーパーソンの弟は他県在住。H19、自宅で動けなくなって2日経過していたところを発見。脳出血と診断。リハビリを続け、H22には仕事を始める(現在は会社の事業撤廃のため、仕事はない)。介護サービスは、通所リハ(週3回)を利用。 《課題・検討内容・自立支援に向けて》 ・コロナ禍の不景気やテレワークが多くなっている状況で、仕事が見つかりにくく、デイケア以外に活動する機会が少なくなっている。 ・自宅の浴槽で溺れそうになって以降、自宅で入浴できない。 ・やる気のない他利用者を見るとイライラしたりするなど、他利用者と交流することが難しいときがある。 ・シルバー人材センターかハローワーク、脳卒中の患者の会、入浴ができるようになるためのリハビリや、デイケアを利用せず自分でできることへのサービスの見直しが必要ではないかとの意見が出た。</p> <p>事例②《ケース概要》 84歳、女性、要介護2。慢性心不全、変形性脊椎症、認知症。長男夫婦、孫2人との5人家族。夫が他界後は高齢大学に通っていたが、長男家族と同居となり行かなくなった。介護サービスは、デイサービス(週3回)、福祉用具(手すり)を利用。 《課題・検討内容・自立支援に向けて》 ・新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、デイサービスを1か月休んでいた。再開後、今までみられなかった行動(夜にデイサービスの準備をしたり、炊飯器の釜の隙間にパンを入れて炊くなど)が見られ、認知症の症状が進んだ様子。今後、コロナ禍では、どのように利用者・家族に対応して行けばいいか。 ・コロナ禍でデイサービスを休んでいる中で、筋力低下や認知症が進行した人は多い。これからも続く問題。家族が在宅勤務になり、自宅にいる時間が多くなり、本人と接する時間が増え、変化に気が付く。逆にイライラしないように不安を解消する。</p>



<p>12月18日(金) 13:30~15:00 サンライトホール</p>	<p>介護支援専門員 4名 サービス事業者 2名 高齢者福祉課 2名 高齢者あんしん相談センター 5名 管理栄養士 1名 歯科衛生士 1名  計 15名</p>	<p>事例①《ケース概要》 72歳、女性。要介護1。統合失調症、高血圧症。 独居、夫は老健入所中。 介護サービスは通所介護(週2回)利用。 《課題・検討内容・自立支援に向けて》 ・病状が悪化しないように対応に気を使うことが、本人の気持ちを抑え込んでいないか。 ・受診や服薬は本人が拒否している。 ・統合失調症の陽/陰の症状があり、栄養面の偏りがある。デイサービスに行くことで規則正しい生活を送る。</p> <p>事例②《ケース概要》 84歳、男性。要介護1。肺気腫、認知症。 妻と2人暮らし。子どもはいない。妻のこだわりで介護が中断する。 介護サービスは通所介護(週2回)利用。 《課題・検討内容・自立支援に向けて》 ・妻のこだわりが強く、妻の体調や気性で本人のサービスが変更、中断する。 ・本人はサービス利用時は、生活の質があがる。妻の干渉に対しては、妻と話し合い時間を設けては。栄養面では、食事時の回数を増やしたり、噛む力を付けるため義歯の作成を促す。</p>
---	--	--

第一号第四様式 (第十七条第四項関係)

地域包括拠点区分資金収支計算書

(自) 令和2年4月1日 (至) 令和3年3月31日

(単位: 円)

勘定科目		予算(A)	決算(B)	差異(A)-(B)	
事業活動による収入	0165 介護保険事業収入	25,530,000	26,160,086	-630,086	
	0171 居宅介護支援介護料収入	3,460,000	3,116,778	343,222	
	8162 介護予防支援介護料収入	3,460,000	3,116,778	343,222	
	0173 その他の事業収入	22,070,000	23,043,308	-973,308	
	8183 受託事業収入	22,000,000	22,980,000	-980,000	
	8184 その他の事業収入	70,000	63,308	6,692	
	0200 受取利息配当金収入	1,000	154	846	
	8541 受取利息配当金収入	1,000	154	846	
	0201 その他の収入	60,000	25,101	34,899	
	8613 雑収入	60,000	25,101	34,899	
	事業活動収入計(1)		25,591,000	26,185,341	-594,341
	事業活動による支出	0129 人件費支出	21,900,000	21,073,100	826,900
7112 職員給料支出		16,600,000	15,726,114	873,886	
7113 職員賞与支出		3,400,000	2,593,010	806,990	
7116 退職給付支出			345,000	-345,000	
7117 法定福利費支出		1,900,000	2,408,976	-508,976	
0130 事業費支出		1,217,000	1,238,924	-21,924	
7221 業務委託費(事業)		84,000	53,327	30,673	
7222 通信費		20,000	3,770	16,230	
7223 水道光熱費支出		280,000	258,715	21,285	
7225 消耗器具備品費支出		84,000	244,045	-160,045	
7226 保険料支出		100,000	47,547	52,453	
7227 賃借料支出		600,000	613,883	-13,883	
7232 車両費支出		27,000	17,187	9,813	
7235 雑支出		22,000	450	21,550	
0131 事務費支出		443,000	1,861,176	-1,418,176	
7311 福利厚生費支出		70,000	55,494	14,506	
7313 旅費交通費支出		6,000	11,398	-5,398	
7314 研修研究費支出		4,000	390	3,610	
7315 事務消耗品費支出		32,000	695,867	-663,867	
7316 印刷製本費支出			9	-9	
7319 修繕費支出		100,000	19,399	80,601	
7321 通信運搬費支出		18,000	27,888	-9,888	
7324 業務委託費支出		134,000	126,578	7,422	
7325 手数料支出		19,000	899,357	-880,357	
7326 保険料支出		32,000	17,542	14,458	
7329 租税公課支出		21,000	1,927	19,073	
7333 諸会費支出	2,000	1,565	435		
7335 雑支出	5,000	3,762	1,238		
0137 支払利息支出	98,000	91,453	6,547		
7441 支払利息支出	98,000	91,453	6,547		
0138 その他の支出		3,654	-3,654		
7452 雑支出		3,654	-3,654		
事業活動支出計(2)		23,658,000	24,268,307	-610,307	
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)		1,933,000	1,917,034	15,966	
施設整備等による収入	施設整備等収入計(4)				
	0143 設備資金借入金元金償還支出	442,000	442,308	-308	
	7511 設備資金借入金元金償還支出	442,000	442,308	-308	
	0144 固定資産取得支出		1,210,000	-1,210,000	
	7523 車両運搬具取得支出		1,210,000	-1,210,000	

第一号第四様式 (第十七条第四項関係)

地域包括拠点区分資金収支計算書

(自) 令和 2年 4月 1日 (至) 令和 3年 3月31日

(単位: 円)

勘定科目		予算(A)	決算(B)	差異(A)-(B)
収支	施設整備等支出計(5)	442,000	1,652,308	-1,210,308
	施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	-442,000	-1,652,308	1,210,308
その他の活動による収支	収入			
	その他の活動収入計(7)			
	0149 長期運営資金借入金元金償還支出	284,000	283,836	164
	7611 長期運営資金借入金元金償還支出	284,000	283,836	164
	0152 積立資産支出	32,000		32,000
	7641 退職給付引当資産支出	32,000		32,000
	その他の活動支出計(8)	316,000	283,836	32,164
	その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	-316,000	-283,836	-32,164
	予備費支出(10)		—	
	当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)	1,175,000	-19,110	1,194,110
	前期末支払資金残高(12)		3,233,378	-3,233,378
	当期末支払資金残高(11)+(12)	1,175,000	3,214,268	-2,039,268

## 令和2年度 高齢者あんしん相談センター みずほ苑 活動実績報告

総合相談支援	総合相談	訪問	631 件
		電話	1,147 件
		来所	98 件
	高齢者実態把握訪問（再掲）		180 件
	出前講座		0 回（— 人）
	介護予防講座		0 回（— 人）
	出張相談会		0 回（— 人）
	地域ケア会議		圏域会議：2 回 個別会議：3 回 介護予防支援地域ケア会議(事例提出)：2 回（5 件）
	関係機関との連携（会議出席・周知活動）		6 回
	見守りネットワーク普及活動	訪問活動件数	0 件
承諾件数		事業所：0 件	
権利擁護(再掲)		虐待	5 件
		成年後見	27 件
		消費者被害	2 件
包括的・継続的ケアマネジメント		担当者会議の出席（要介護者）	21 回
		ケアマネジャーからの相談	81 件
ケアマネジャー研修会（包括主催）		1 回（62 人） 内容「人の動きと環境設定～住宅環境を考える～」	
介護予防給付	包括	給付管理数(延数)・実人数	322 件（36 人）
	委託	給付管理数(延数)・実人数	200 件（26 人）
総合事業	介護予防ケアマネジメント A	包括	417 件（47 人） (うち事業対象者数 8 人)
		委託	314 件（40 人）
	介護予防ケアマネジメント C	包括	0 件（0 人） (うち事業対象者数 0 人)
介護者支援		介護者教室	1 回（13 人）
認知症サポーター養成講座		養成講座	1 回（17 人）
		フォローアップ研修	0 回（— 人）
認知症カフェ開催（参加延べ人数）		1 回（本人：0 人） （家族：0 人）（協力者：0 人）	
地域包括支援センター全体会議、管理者会議		12 回	
認知症地域支援推進員会議		8 回	
認知症初期集中チーム員会議の出席、アルツハイマーデーイベント参加等		オレンジダイヤル 4 回 チーム会議出席 6 回	
生活支援体制整備推進会議の出席、事業の参加等		0 回	
介護保険事業推進委員会の出席		2 回	
その他の活動等	研修等の出席、事業の参加等		10 回
	ケアマネサロン「クラージュ」		0 回（— 人）
	交通安全アドバイス		0 回（— 人）
	パワーアップ体操		0 回（— 人）
地域行事などへの協力等		11 回	

### 【活動内容総括】

新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、訪問の自粛があり、年間の高齢者実態把握の件数は、令和元年度に比べ半数以下となっています。訪問の代わりに対応として、地域包括支援センターの案内と共に、介護予防や消費者被害のチラシの配布を行っています。また、認知症サポーター養成講座をオンラインで開催するなど、新しい活動を模索した一年でした。地域の活動自粛の影響で、出かける場所がなくなってしまった高齢者、閉じこもりによる活動量の低下による廃用症候群の相談なども増えています。地域の活動の大切さを強く感じました。今後は、生活支援体制整備推進事業など「地域の支えあい活動」の支援、地域との関係性を深め、身近な相談窓口として認識していただけるよう取り組んでいきたいと思っております。

令和2年度 地域ケア圏域会議 実施結果

高齢者あんしん相談センター みずほ苑

日時及び場所	参加者	討議内容(地域課題・対応・今後の課題など)
<p>10月26日(月) 13:30～15:00</p> <p>針ヶ谷コミュニティセンター</p>	<p>医師 1名 民生委員 2名 介護支援専門員 2名 生活支援コーディネーター 1名 健康増進センター 1名 薬剤師 1名 高齢者福祉課 2名 高齢者あんしん相談センター 5名</p> <p>計 15名</p>	<p>「 コロナ禍におけるひきこもり予防を考える。 」</p> <p>《ケース概要》 緊急事態宣言解除後、徐々に地域の教室などの活動が再開し始めている。しかし、限られた会場での人数制限や再開に至らない団体もあり、外出の機会が減っている。コロナ禍でありながら、閉じこもりを予防するのに効果的な支援があるのか、検討を行う。</p> <p>《対応》 ・高齢者の方の場合、情報の偏りが激しい。何か一つのグループに所属することで、地域の情報を得られる手掛かりになる。 ・高齢者が新しい環境に入っていくハードルの高さを支援側が意識し、紹介から実際につなぐところまで支援していく必要がある。 ・地域密着型FMラジオなどの活用なども検討。 ・新型コロナウイルスに感染するリスクとフレイルになるリスクを数値化などにして説明するとわかりやすい。</p> <p>《今後の課題》 ・新型コロナウイルス感染症の終息は難しく、新しい生活様式の中、高齢者の閉じこもり予防を考えていかなければならない。関係機関ごとに持っている地域の情報をうまく情報共有し、閉じこもり予防につなげていけるシステムが作れるとよい。</p>
<p>2月22日(月) 13:30～15:00</p> <p>針ヶ谷コミュニティセンター</p>	<p>医師 1名 民生委員 1名 介護支援専門員 2名 生活支援コーディネーター 1名 障がい福祉課 1名 訪問看護ステーション 1名 高齢者福祉課 2名 高齢者あんしん相談センター 6名</p> <p>計 15名</p>	<p>「 精神疾患を持つ家族がいる高齢者への支援について 」</p> <p>《ケース概要》 精神疾患を抱えた子を持つ高齢者の相談ケースが年々増えていると感じている。支援にかかわったケースを通じて、関係者間で意見交換することで今後の支援につながるシステム作りを考える。</p> <p>《対応》 ・8050問題、親が要介護状態、子どもが知的や精神障害などの相談は増えている。 ・長年家族の中で対応し、生活に困らないと相談に乗ってこないケースが多い。 ・子どもが障害を抱えていると恥ずかしい、外に知られたくないと思う高齢者も多い。 ・高齢者・障害・生活困窮などそれぞれの枠組みの中で支援が行われる。ワンストップ型の支援(重層的支援)を先行している自治体もあるが、現状、横断した支援は難しい。 ・市の障がい者支援センターは機関センター1か所。相談員も3人で高齢者分野ほど支援が追いついていない。</p> <p>《今後の課題》 ・家族も含めて問題を抱えているケースが増えている。情報の共有や情報の発信が大切。関係者が心配しても、拒否があると支援は難しい。医療と介護の連携ツールのようなものがあると支援が一層進むと思われる。</p>

令和2年度 地域ケア個別会議 実施結果

高齢者あんしん相談センター みずほ苑

日時及び場所	参加者	自立支援に資する討議内容
11月20日(月) 13:30~14:50  針ヶ谷コミュニティーセンター	介護支援専門員 5名 健康増進センター 1名 高齢者福祉課 2名 高齢者あんしん相談センター 5名  計 13名	<p>事例①《ケース概要》                      88歳、女性。要介護1。独居。息子は2人(市内・市外)。うつ病・認知症があり通院治療中。訪問介護週4回、訪問看護週1回、認知症デイ週1回、福祉用具(ベッド・手すり)利用。長男が毎日訪問している。エレベーターのないマンションの3階に居住。                      《課題・検討内容・自立支援に向けて》                      ・書道が好きなので、地域で活かせるとよい。また、デイの活動で本人ができる事にかかわってもらうよう促す。                      ・認知症の進行に注意。                      ・エレベーターのないマンションの3階に居住のため、筋力低下の運動に着目しては？</p> <p>事例②《ケース概要》                      91歳、女性。要介護1。独居で子供はいない。キーパーソンは和光市に住む弟。H22年に腰椎圧迫骨折。社交性もあり、隣人とは仲が良い。ADL自立。弟夫婦との関係は良好。財産管理も弟が行っている。ヘルパー週2回、デイケア週1回、助け合いサービス外出時利用、草むしりなどは社協の有償ボランティア利用。                      《課題・検討内容・自立支援に向けて》                      ・右目の視力低下による転倒の危険がある。デイケアのPTに階段昇降などのアドバイスをもらっては。                      ・買い物に行けない理由が筋力の低下とは限らない。本人の状態の確認が必要。                      ・サービスを利用しながら、本人ができる方法を検討していく必要がある。                      ・弟夫婦も高齢なため、今後のことを考える必要がある。</p>

<p>3月12日(金) 10:00~11:00</p> <p>針ヶ谷コミュニティーセンター</p>	<p>介護支援専門員 3名 生活支援コーディネーター 1名 高齢者福祉課 2名 高齢者あんしん相談センター 4名</p> <p>計 10名</p>	<p>事例①《ケース概要》 83歳、女性。要介護1。本人と次男(2階)長男夫婦(3階)と同居。1階は店舗になっている。階段昇降は可能。畳屋の経理をやっていたが、夫他界後、認知症状が進み、現在は長男が行っている。15年前に交通事故で左上下肢に痛みあり。高血圧・貧血あり。自宅内は伝い歩き。転倒はなし。デイケア週3回利用。次男が不規則な仕事で一緒に食事をするため、食べ損ねてしまう。 《課題・検討内容・自立支援に向けて》 ・小柄な方なので体重の減少には注意。デイでの入浴時など全身状態を確認してもらおう。 ・階段昇降ができなくなってしまうと在宅生活が難しくなる。デイケアの職員の評価も聞きながら状態の把握をしていく必要がある。 ・転倒しないための環境整備を行っていく必要がある。</p> <p>事例②《ケース概要》 66歳、男性。要介護2。父親(認知症・要支援認定・サービス未利用)と二人暮らし。心臓のステント術・糖尿病・両目緑内障・糖尿病性網膜症・硝子体両目手術・角膜内皮移植術を行っている。左目はほとんど失明状態。デイサービス週3回、訪問看護週3回、訪問介護週1回利用。 《課題・検討内容・自立支援に向けて》 ・心疾患もあるので、緊急時連絡システムの利用を検討してはどうか。 ・今後は父親も含めた一体的な支援が必要になるかもしれない。 ・インスリンの管理が本人が難しくなるようであれば、内服薬に変更できないか。 ・本人の障害に対する受容ができていないが、障害サービスの利用も視野に入れ、外出の機会を持てるよう支援してはどうか。</p>
<p>3月12日(金) 13:30~15:00</p> <p>針ヶ谷コミュニティーセンター</p>	<p>介護支援専門員 4名 歯科衛生士 1名 管理栄養士 1名 高齢者福祉課 2名 高齢者あんしん相談センター 3名</p> <p>計 11名</p>	<p>事例①《ケース概要》 84歳、男性。要介護3。本人・妻が1階、長男家族が2・3階に住む。長女は県外。慢性腎不全・高血圧あり。足のむくみがあり転倒しやすい。食事は腎臓病のため、カリウムやタンパク質制限あり家族が調理をしている。福祉用具の貸与(ベッド・車いす)を利用。デイサービスは中止している。 《課題・検討内容・自立支援に向けて》 ・食事の制限があり大変。栄養相談を利用してはどうか。→栄養ケアステーション・つばさ薬局での栄養相談の情報提供あり。 ・部分入れ歯をしっかりと使うことで、奥歯に力が入り転倒予防にもなる。 ・通所リハビリの提案があった。</p> <p>事例②《ケース概要》 77歳、男性。要介護1。独居。閉塞性肺疾患で在宅酸素使用。要支援で訪問看護・訪問介護利用し更新にて要介護1。認知症が進行(病院内で迷子・服薬困難)。食事は娘が冷凍食品を届けているが、食べずに置かれていることもある。歯磨きしない。薬を飲まない。娘は仕事があり、週末に訪問している。訪問看護週1回、訪問リハビリ週1回、訪問介護週2回利用中。 《課題・検討内容・自立支援に向けて》 ・意欲低下や鬱っぽくなっている様子も見られるので、訪問リハビリなどを利用し、一緒に買い物をしたり、本人の興味関心を引き出す支援を。 ・誤嚥性肺炎や感染症予防のため口腔内の衛生を保つことが必要。 ・今は食べるのが重要。なんでもよいので体に入れた方がいい。高たんぱくなものを接種するとよい。(豆腐・厚揚げなど) ・アルコールの量や時間を決める。</p>

地域包括支援センター 資金収支計算書

(自)令和 2年 4月 1日(至)令和 3年 3月31日

社会福祉法人名 社会福祉法人美咲会

(単位:円)

勘定科目		予算(A)	決算(B)	差異(A)-(B)	備考	
収入	介護保険事業収入	26,782,000	26,847,794	65,794		
	居宅介護支援介護料収入	3,433,000	3,498,440	65,440		
	介護予防支援介護料収入	3,433,000	3,498,440	65,440		
	その他の事業収入	23,349,000	23,349,354	354		
	受託事業収入(公費)	23,349,000	23,349,354	354		
	受取利息配当金収入	1,000	99	901		
	その他の収入	36,400	53,400	17,000		
	受入研修費収入	22,000	39,000	17,000		
	利用者等外給食費収入	1,400	1,400	0		
	雑収入	13,000	13,000	0		
	雑収入	13,000	13,000	0		
	事業活動収入計(1)		26,819,400	26,901,293	81,893	
	事業活動による収支	支出	人件費支出	19,460,000	19,802,280	342,280
職員給料支出			13,156,000	13,182,759	26,759	
職員賞与支出			2,707,000	2,904,400	197,400	
非常勤職員給与支出			710,000	725,620	15,620	
退職給付支出			445,000	445,000	0	
法定福利費支出			2,442,000	2,544,501	102,501	
事業費支出			894,000	810,334	83,666	
給食費支出			9,000	9,293	293	
保健衛生費支出			32,000	31,180	820	
日用品費支出			42,000	41,037	963	
消耗器具備品費支出			704,000	581,308	122,692	
保険料支出			8,000	9,733	1,733	
車輜費支出		99,000	137,783	38,783		
事務費支出		2,411,000	2,505,272	94,272		
福利厚生費支出		109,000	106,011	2,989		
旅費交通費支出		1,000	660	340		
研修研究費支出		35,000	41,782	6,782		
事務消耗品費支出		27,000	26,034	966		
印刷製本費支出		120,000	105,982	14,018		
水道光熱費支出		626,000	661,524	35,524		
修繕費支出		19,000	18,883	117		
通信運搬費支出		168,000	169,597	1,597		
会議費支出		1,000	564	436		
広報費支出		318,000	262,350	55,650		
業務委託費支出		74,000	95,502	21,502		
手数料支出		1,000	1,100	100		
保険料支出		20,000	27,697	7,697		
賃借料支出		534,000	632,977	98,977		
土地・建物賃借料支出		144,000	140,400	3,600		
租税公課支出		20,000	20,000	0		
保守料支出		182,000	182,209	209		
諸会費支出		12,000	12,000	0		
支払利息支出		252,000	251,807	193		
その他の支出	1,400	1,400	0			
利用者等外給食費支出	1,400	1,400	0			
事業活動支出計(2)		23,018,400	23,371,093	352,693		
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)		3,801,000	3,530,200	270,800		
収入	施設整備等収入計(4)					
	設備資金借入金元金償還支出	1,658,000	1,657,800	200		
支出						



## 地域包括支援センター 資金収支計算書

(自)令和 2年 4月 1日(至)令和 3年 3月31日

社会福祉法人名 社会福祉法人美咲会

(単位:円)

勘定科目		予算(A)	決算(B)	差異(A)-(B)	備考
施設整備等による収支	支出				
	施設整備等支出計(5)	1,658,000	1,657,800	200	
	施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	1,658,000	1,657,800	200	
その他の活動による収支	収入				
	その他の活動による収入		27,697	27,697	
	長期前払費用返還金収入		27,697	27,697	
	その他の活動収入計(7)		27,697	27,697	
	支出				
拠点区分間繰入金支出	2,143,000	1,900,097	242,903		
その他の活動支出計(8)	2,143,000	1,900,097	242,903		
その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	2,143,000	1,872,400	270,600		
予備費支出(10)					
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)		0	0	0	
前期末支払資金残高(12)		793,653	793,653	0	
当期末支払資金残高(11)+(12)		793,653	793,653	0	

令和2年度 高齢者あんしん相談センター ひだまりの庭むさしの 活動実績報告

総合相談支援	総合相談	訪問	537 件
		電話	749 件
		来所	103 件
	高齢者実態把握訪問（再掲）		146 件
	出前講座		0 回（— 人）
	介護予防講座		0 回（— 人）
	出張相談会		0 回（— 人）
	地域ケア会議		圏域会議：1 回 個別会議：3 回 介護予防支援地域ケア会議(事例提出)：2 回（5 件）
	関係機関との連携（会議出席・周知活動）		5 回
	見守りネットワーク普及活動	訪問活動件数	0 件
承諾件数		事業所：0 件	
権利擁護(再掲)	虐待	16 件	
	成年後見	4 件	
	消費者被害	1 件	
包括的・継続的ケアマネジメント	担当者会議の出席（要介護者）	0 回	
	ケアマネジャーからの相談	57 件	
ケアマネジャー研修会（包括主催）		1 回（62 人） 内容「人の動きと環境設定～住宅環境を考える～」等	
介護予防給付	包括	給付管理数(延数)・実人数	173 件（28 人）
	委託	給付管理数(延数)・実人数	452 件（40 人）
総合事業	介護予防ケアマネジメント A	包括	170 件（25 人） (うち事業対象者数 3 人)
		委託	355 件（30 人）
	介護予防ケアマネジメント C	包括	0 件（0 人） (うち事業対象者数 0 人)
介護者支援	介護者教室	2 回（17 人）	
	介護者サロン支援	0 回（介護者：— 人）	
認知症サポーター養成講座	養成講座	0 回（— 人）	
	フォローアップ研修	0 回（— 人）	
認知症カフェ開催（参加延べ人数）		0 回（本人：— 人） (家族：— 人) (協力者：— 人)	
地域包括支援センター全体会議、管理者会議		12 回	
認知症地域支援推進員会議		9 回	
認知症初期集中チーム員会議の出席、アルツハイマーデーイベント参加等		オレンジダイヤル 4 回	
生活支援体制整備推進会議の出席、事業の参加等		0 回	
介護保険事業推進委員会の出席		2 回	
その他の活動等	研修等の出席、事業の参加等		10 回
	ケアマネサロン「クラージュ」		0 回（— 人）
	交通安全アドバイス		0 回（— 人）
地域行事などへの協力等		5 回	

【活動内容総括】

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、新しい生活様式として人が集まることが難しくなっており、地域包括支援センターの事業にも大きな影響がありました。市民向けの講座や、専門職同士での会議や研修会、アルツハイマーデーなどのイベントなど、今まで当たり前に行っていたことができなくなり、戸惑うことばかりでした。ZOOMなどの新しい技術を取り入れる努力もしましたが、その活用・展開には至らず、受け身の立場で利用していくのがやっとなりました。相談に対する訪問は、訪問時のマニュアルを整備し、各自感染に気を付けながら行いました。高齢者実態把握などの突発的な訪問は難しく、チラシの配布などで地域包括支援センターの周知をすすめるように努めました。新しい生活様式の中、集まらなくてもできること、感染予防をしながらできることなど、いろいろな工夫を考えていきたいと思っております。

令和2年度 地域ケア圏域会議 実施結果

高齢者あんしん相談センター ひだまりの庭むさしの

日時及び場所	参加者	討議内容(地域課題・対応・今後の課題など)
<p>11月11日(水) 10:00~11:30</p> <p>水谷公民館</p>	<p>町会長 1名 民生委員 3名 介護支援専門員 3名 生活支援コーディネーター 1名 高齢者福祉課 2名 高齢者あんしん相談センター 5名</p> <p>計 15名</p>	<p>「 コロナ禍における最近の水谷第二町会の様子から、地域の課題を考える 」</p> <p>《ケース概要》 80代、女性。独居。市外にある息子とは電話連絡をする。介護認定は受けているが本人にその気がなく、サービスの利用はない。 コロナ禍で地域の活動も行えない状況が続く中、独居高齢者などの見守りについてどのように考えていけばいいか。</p> <p>《対応》 地域では少しずつ感染拡大防止をしながら活動も動き出している。人とのつながりを大切に、地域でつながることのできる機会や場所の情報の発信や共有を行っていく。</p> <p>《今後の課題》 本日の会議に参加した役割を持った方たちがつながり、それぞれの立場で住民の変化や困りごとを把握し、相互に情報共有を行いながら協働していくことが大切なので、そういった関わりを育てていくことが課題と思われる。</p>
<p>2月 (開催予定)</p>		<p>新型コロナウイルス感染症の影響により、開催できませんでした。</p>

令和2年度 地域ケア個別会議 実施結果

高齢者あんしん相談センター ひだまりの庭むさしの

日時及び場所	参加者	自立支援に資する討議内容
<p>9月3日(木) 13:30~15:00  水谷公民館</p>	<p>介護支援専門員 5名 サービス事業者 5名 生活支援コーディネーター 1名 健康増進センター 1名 高齢者福祉課 1名 高齢者あんしん相談センター 3名  計 16名</p>	<p>事例①《ケース概要》 91歳、男性。要介護1。妻、娘、孫と同居。デイサービス週3回利用。高齢である本人が家族の大黒柱であり、介護者でもあり、孫の保護者でもある。しかし加齢によるいろいろな能力の低下が顕著になり、本人にもサービスが必要になってきた方。 《課題・検討内容・自立支援に向けて》 ・責任感から自分の加齢や能力の低下を受け入れられず、サービスを拒否する。→サービスを受け入れてもらうにどうしたよいか。→専門家(医療職)などからの意見を聞く機会を作り、本人の納得できる状況を作っていく。 ・家族それぞれの問題点や経済的な状況も理由になっている。→家族それぞれの問題の関係機関と連携し、チームアプローチを行っていく。</p> <p>事例②《ケース概要》 72歳、女性。要介護1。夫と二人暮らし。福祉用具貸与、訪問看護週2回、ヘルパー週2回利用。転倒による骨折が数回ある。介護者が本人の安全を優先し過ぎてしまい、本人の役割までも奪ってしまい日常生活が不活発になってしまっている。 《課題・検討内容・自立支援に向けて》 ・夫の思いが、本人の自立支援の妨げになってしまう。→夫の気持ちへの理解と生活を活発にする具体的なアプローチの方法について。→専門家からの見立てや効果を具体的に説明し優先事項を考えてもらう。 ・プランの目標が設定不十分。→地域との交流などを考慮して考える。家の中に入る人としか交流がないため、まずは外で活動することを考えて目標設定していく。</p>

<p>3月25日(木) 13:30～15:00</p> <p>水谷東公民館</p>	<p>介護支援専門員 3名 サービス事業者 4名 歯科衛生士 1名 栄養士 1名 生活支援コーディネーター 1名 健康増進センター 1名 高齢者福祉課 2名 高齢者あんしん相談センター 4名</p> <p>計 17名</p>	<p>事例①《ケース概要》 85歳、男性。要介護2。独居。通所リハ週3回利用。向かいの家に息子家族が住んでいる。がんの骨転移による痛みから右足に荷重ができず歩行が困難。介護者が本人を心配し必要なリハビリを受けさせることを躊躇している。 《課題・検討内容・自立支援に向けて》 ・医師の許可しているリハビリに、介護者の心配が理由で取り組めていない。→家族にどのように正しく認識してもらうか→デイケアで今できていることを家族に確認してもらい、できることを理解してもらう。 ・ケアプランの目標について→ケアプランの目標を具体的に設定し、皆がリハビリの効果や必要性を認識できるようにする。 ・地域のネットワークを活用する視点を持ってはどうか→本人と地域の関わりなどをアセスメントすると、思わぬ状況改善の理由になることがある。</p> <p>事例②《ケース概要》 90歳、女性。要介護2。独居で生活保護受給者。デイサービス週3回利用。同県他市の次男の訪問が毎週ある。同居していた引きこりの三男が死亡してから精神的に不安定になった。息苦しいと市の緊急時連絡システムを押しすることが頻回にあり、家族への連絡も頻回。認知症の疑いもある。 《課題・検討内容・自立支援に向けて》 ・不安になると緊急時連絡システムを押ししてしまう。→不安感の軽減について。→知り合いなどとの定時連絡など日課にし不安を軽減させる。配食などの少しの訪問をしてくれるサービスを検討する。不安についてだけでなく、気持ちのいい状態の時のことを情報共有していく。 ・チームアプローチの意識を高める。→生活保護ケースワーカーやケアマネジャーだけでなく、関われる支援者を増やし、チームでアプローチしていくことで支援者の負担を減らし、本人の不安の解消にもつながるのではないかと。</p>
<p>3月30日(火) 13:30～15:00</p> <p>ZOOM開催</p>	<p>介護支援専門員 4名 生活支援コーディネーター 1名 健康増進センター 1名 高齢者福祉課 2名 高齢者あんしん相談センター 5名</p> <p>計 13名</p>	<p>事例①《ケース概要》 83歳、女性。要介護2。娘と二人暮らし。近くに住む長男夫婦の訪問や支援がある。ヘルパー週2回。同居の娘は病気がありながら仕事をしている。デイサービスは話が合わないと拒否。本人は子ども達の対応や関係に不満がある。家族はそれぞれにできることをしている。本人に孤立感があり気持ち落ち込むことがある。 《課題・検討内容・自立支援に向けて》 ・本人に孤立感があり気持ちが落ち込むことがある。→子ども達との関わり状況の確認。病気の娘と別居の息子との会話が少ない。嫁は外出に付き添うなど良好な関係。→子ども達に本人の状況を伝えるてみるにより子ども達の関わりに変化があるか観察する。 ・サービスを増やすことを検討する。→インフォーマルも含め、本人が他者と関われる機会や人を増やしてはどうか。</p> <p>事例②《ケース概要》 84歳、女性。要介護1。独居で婚姻歴はない。デイサービス週4回、ヘルパー週1回、薬局の居宅療養管理指導月2回利用。男性の同居人と60歳頃から一緒にいたが、R1年に亡くなり独居となる。物忘れが始まり、だんだんと認知症が進行してきている。 《課題・検討内容・自立支援に向けて》 ・家事でできないことがたくさんある。→サービスの内容や、インフォーマルなサービス、社会資源について、それぞれ助言があった。デイサービスに行くことで生活を完結させることなく、様々なサービスを組み合わせる生活を支えていくことを考えていくことが必要。 ・金銭管理ができない。→関われる人や関係機関について検討。→遠方だが妹がいるため協力を求める。成年後見なども検討していく。 ・認知症について。→初期の認知症での地域でのトラブル。今後の問題になることの予測について。→行動範囲の把握。徘徊などに備える制度利用の検討。地域への認知症への理解の啓発。地域の見守り体制の確認と、地域への情報提供などを検討する。</p>

資金収支計算書  
(自) 令和 2年 4月 1日 (至) 令和 3年 3月31日

(単位:円)

勘定科目		予算(A)	決算(B)	差異(A)-(B)
収入	0165 介護保険事業収入	24,966,072	25,006,426	-40,354
	0171 居宅介護支援介護料収入	1,817,000	1,858,246	-41,246
	8162 介護予防支援介護料収入	1,817,000	1,858,246	-41,246
	0173 その他の事業収入	23,149,072	23,148,180	892
	8181 補助金事業収入	357,072	357,072	
	8183 受託事業収入	22,792,000	22,791,108	892
	0200 受取利息配当金収入	1,000	33	967
	8541 受取利息配当金収入	1,000	33	967
	0201 その他の収入	88,000	69,600	18,400
	8612 利用者等外給食費収入	81,000	69,600	11,400
	8613 雑収入	7,000		7,000
事業活動収入計(1)		25,055,072	25,076,059	-20,987
事業活動による収支	0129 人件費支出	22,926,000	22,679,291	246,709
	7112 職員給料支出	13,944,000	13,684,431	259,569
	7113 職員賞与支出	3,814,000	3,813,400	600
	7114 非常勤職員給与支出	1,641,000	1,677,983	-36,983
	0001 給与	1,607,000	1,644,790	-37,790
	0002 賞与	34,000	33,193	807
	7116 退職給付支出	668,000	667,500	500
	7117 法定福利費支出	2,859,000	2,835,977	23,023
	0001 社会保険料 給与分	2,116,000	2,093,809	22,191
	0002 社会保険料 賞与分	559,000	558,502	498
	0003 労働保険料	184,000	183,666	334
	0130 事業費支出	543,000	475,329	67,671
	7215 保健衛生費支出	16,000	20,549	-4,549
	7223 水道光熱費支出	120,000	122,010	-2,010
	0001 電気	82,000	83,723	-1,723
	0002 水道	24,000	24,221	-221
	0003 ガス	14,000	14,066	-66
	7225 消耗器具備品費支出	7,000	3,300	3,700
	7232 車輛費支出	400,000	329,470	70,530
	0131 事務費支出	2,869,000	2,438,789	430,211
	7311 福利厚生費支出	49,000	45,949	3,051
	7313 旅費交通費支出	4,000	3,000	1,000
	7314 研修研究費支出	44,000	36,400	7,600
	7315 事務消耗品費支出	421,000	354,393	66,607
	7316 印刷製本費支出	71,000	70,381	619
	7319 修繕費支出	3,000	1,800	1,200
	7321 通信運搬費支出	204,000	207,508	-3,508
	7322 会議費支出	9,000	14,655	-5,655
	7323 広報費支出	264,000	132,000	132,000
	7324 業務委託費支出	281,000	82,259	198,741
	7326 保険料支出	133,000	131,936	1,064
	0001 火災	6,000	5,316	684
	0002 自動車	127,000	126,620	380
	7327 賃借料支出	1,095,000	1,093,840	1,160
	7329 租税公課支出	20,000	20,000	
	7331 保守料支出	5,000	4,488	512
	7332 渉外費支出	20,000	3,078	16,922
	7333 諸会費支出	6,000		6,000
	7335 雑支出	240,000	237,102	2,898
	0001 支払手数料	1,000	462	538
0002 共助会費	239,000	236,640	2,360	
事業活動支出計(2)		26,338,000	25,593,409	744,591
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)		-1,282,928	-517,350	-765,578

施設整備等による収支	収入	施設整備等収入計(4)			
	支出	0144 固定資産取得支出	61,000	60,220	780
		7522 建物取得支出	61,000	60,220	780
		施設整備等支出計(5)	61,000	60,220	780
	施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	-61,000	-60,220	-780	
その他の活動による収支	収入	0223 サービス区分間繰入金収入	500,000	500,000	
		8883 サービス区分間繰入金収入	500,000	500,000	
		その他の活動による収入計(7)	500,000	500,000	
	支出	0161 サービス区分間繰入金支出	431,050	431,358	-308
		7673 サービス区分間繰入金支出	431,050	431,358	-308
		その他の活動支出計(8)	431,050	431,358	-308
	その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	68,950	68,642	308	
予備費支出(10)		—			
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)	-1,274,978	-508,928	-766,050		
前期末支払資金残高(12)			1,298,872	766,725	532,147
当期末支払資金残高(11)+(12)			23,894	257,797	-233,903